

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

建	物	現	金	当	座	預	金	普	通	預	金								
受	取	手	形	売	掛	金	支	払	手	形	買	掛	金						
預	り	金	借	入	金	引	出	金	売	上									
仕	入	受	取	利	息	租	税	公	課	通	信	費							
旅	費	交	通	費	支	払	保	険	料	水	道	光	熱	費	手	形	売	却	損

1. 中野商店に商品¥125,000を販売し、代金のうち半分は中野商店振り出しの小切手で受け取り、残額のうち半分は当店振り出しの約束手形が裏書譲渡され、残額は掛けとした。
2. 得意先新宿商店より受領した約束手形¥73,000を取引銀行で割り引き、利息相当額を差し引かれ、残額は当座預金とした。年利率は1%、割引日数は80日であった。なお、1年は365日とする。
3. 店舗として利用している建物の火災保険料¥1,250と店主の所得税¥30,000を普通預金口座から支払った。
4. 金銭の借用書に添付するための収入印紙¥200を近くの郵便局で5枚購入し、代金は現金で支払った。
5. 8月末日、用度係から8月中の経費支払について次のような報告があった。

通信費 ¥ 5,000 交通費 ¥ 32,000 光熱費 ¥ 15,000

なお、当社は小口現金の管理方法として、定額資金前渡制度（インプレスト・システム）を採用しており、毎月末日に報告を受け、同時に小切手を振り出して小口現金を補給することとしている。

第2問 (8点)

下記の補助元帳および補助記入帳の記入にもとづいて、答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。なお、当店は取引銀行との間に、借越限度額を¥100,000とする当座借越契約を結んでいる。各日付の取引は下記の各帳簿にすべて記入されており、勘定科目は次に示すものを用いること。

当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金	商	品	消	耗	品			
支	払	手	形	買	掛	金	商	品	売	買	益	発	送	費	当	座	借	越

当座預金出納帳

平成30年		摘 要	預 入	引 出	借/貸	残 高
1	1	前 月 繰 越	30,000		借	30,000
	5	福岡商店仕入に係る当店負担発送費		5,000	〃	25,000
	10	事務用消耗品の購入		28,000	貸	3,000
	30	石川商店、掛け代金受け取り	460,000		借	457,000

移動平均法

商 品 有 高 帳

(数量単位：個)

平成 30年	摘 要		受 入			払 出			残 高		
			数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額
1	1	前 月 繰 越	20	1,000	20,000				20	1,000	20,000
	5	福岡商店仕入	380	1,200	456,000				400	1,190	476,000
	20	石川商店売上				380	1,190	452,200	20	1,190	23,800

買掛金元帳

福 岡 商 店

平成 30年	摘 要		借 方	貸 方	借/貸	残 高
1	5	仕 入		451,000	貸	451,000

売掛金元帳

石 川 商 店

平成 30年	摘 要		借 方	貸 方	借/貸	残 高
1	1	前 月 繰 越	30,000		借	30,000
	20	売 上	466,200		〃	496,200
	30	当座預金へ振り込み		460,000	〃	36,200

受取手形記入帳

平成 30年	摘 要	金 額	手形種類	手形番号	支 払 人	振 出 人 ま した は 裏 書 人	振 出 日		支 払 期 日		支 払 場 所	て ん 末		
							月	日	月	日		月	日	摘 要
1	20	売 上	約手	1	石川商店	石川商店	1	20	4	20	CPA銀行			

第3問 (30点)

次の(A)前期末の貸借対照表と、(B)平成30年1月中の取引にもとづいて、合計残高試算表を作成しなさい。なお、店主の引出金は資本金勘定から直接控除する方法により処理すること。また、商品売買の記帳方法は3分法による。

(A) 前期末の貸借対照表

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現金	310,000	支払手形	45,000
当座預金	510,000	買掛金	65,000
受取手形	30,000	預り金	19,200
売掛金	70,000	貸倒引当金	2,000
商品	20,400	資本金	700,000
前払地代	1,600	当期純利益	490,800
建物	380,000		
	1,322,000		1,322,000

(B) 平成30年1月中の取引

1. 現金に関する取引

- a. 商品発注に伴う手付金の支払額 ￥ 50,000
- b. 仕入高 ￥120,000
- c. 商品受注に伴う手付金の受入額 ￥ 60,000
- d. 電話料金の支払い ￥ 4,000
- e. 水道光熱費の支払い ￥ 18,000
(うち、店主生活費にかかる分は30%である)
- f. 当座預金からの受入額 ￥100,000
- g. 概算払いの出張費の支払額 ￥ 24,000

2. 当座預金に関する取引

- a. 約束手形の期日入金額 ￥140,000
- b. 売掛金の回収額 ￥450,000
- c. 約束手形の期日支払額 ￥130,000
- d. 買掛金の支払額 ￥300,000
- e. 給料の支払額 ￥ 86,800
(源泉所得税￥3,200が控除されている)
- f. 所得税の預り金の支払額 ￥ 19,200
- g. 手形振出しによる金銭借入額 ￥ 77,600
(利息￥2,400が控除されている)
- h. 現金引出額 ￥100,000

3. 仕入れに関する取引

- a. 現金仕入高 ￥120,000
- b. 約束手形の振出しによる仕入高 ￥ 80,000
- c. 掛け仕入高 ￥350,000
- d. 約束手形の裏書譲渡による仕入高 ￥ 5,000
- e. 手付金による仕入高 ￥ 30,000

4. 売上げに関する取引

- a. 約束手形の受入れによる売上高 ￥150,000
- b. 手付金による売上高 ￥ 50,000
- c. 掛け売上高 ￥550,000
- d. 掛け値引高 ￥ 3,000
- e. 他店発行の市内共通商品券による売上高 ￥ 10,000

5. その他の取引

- a. 前払地代勘定から支払地代勘定への振替高 ￥ 1,600
- b. 当期発生売掛金の貸倒高 ￥ 4,000
- c. 約束手形による買掛金の決済高 ￥ 30,000

第4問 (12点)

次の文の (①) から (④) に当てはまる適切な語句を下記の [語群] から選び、ア～コの記号で答えなさい。

1. 有形固定資産として土地を購入し、代金は掛けとした場合の仕訳の貸方は (①) 勘定を用いる。
2. 他店振出小切手を受け取った場合に現金勘定で処理するのは、簿記上現金の範囲を即時支払手段となり得る通貨および (②) としているためである。
3. 決算において、将来貸倒れる危険性の高い売上債権の金額を合理的に見積もり、将来の費用を当期に計上するのは、現行上会計の目的を (③) に置いているからである。
4. 当座勘定は、借方残の場合は資産を示し、貸方残の場合は負債を示す。このような勘定を混合勘定といい、これは、(④) の一つである。

[語群]

ア 照 合 勘 定 イ 買 掛 金 ウ 特 殊 勘 定 エ 期 間 損 益 計 算 の 適 正 化
オ 未 払 金 カ 利 害 調 整 機 能 キ 現 金 同 等 物 ク 集 合 勘 定
ケ 通 貨 代 用 証 券 コ 費 用 収 益 対 応 の 原 則

第5問 (30点)

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。なお、会計期間は1月1日から12月31日までの1年間である。

決算整理事項等

1. 現金過不足の原因を調査した結果、商品販売の際に支払った発送費¥3,000 が記帳もれであったことが判明した。また、決算に際し金庫の中を調査した結果、内訳は次のとおりであった。
紙幣・硬貨 ¥13,500 得意先振出しの小切手 ¥72,000 得意先振出しの約束手形 ¥75,000
配当金領収書 ¥1,650
2. 前期に貸倒処理した売掛金¥2,000 が、当期に現金により回収されたが未処理である。また、前期に発生した売掛金¥6,000 が当期に貸倒れたが、貸倒高を貸倒損失勘定で処理している。
3. 商品の期末棚卸高は¥60,000 である。売上原価の算定場所は売上原価勘定とする。
4. 受取手形および売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を、差額補充法によって設定する。
5. 当期の3月4日に備品（取得原価¥48,000、期首帳簿価額¥19,200）を売却したが、売却代金を仮受金勘定で処理している。
6. 決算に際して減価償却を行う。なお、減価償却の記帳方法は直接法によっている。
建物 取得原価 ¥500,000 残存価額10% 耐用年数20年 定額法
備品 取得原価 ¥132,000 残存価額ゼロ 耐用年数15年 定額法
なお、上記の備品の取得原価には、5. の備品の取得原価は含まれていない。
7. 消耗品の期末未使用高は¥8,000 である。
8. 定期預金¥300,000 は、前期の4月1日に利率年3%、利払日は3月末と9月末の年2回の条件で預け入れたものであるが、決算日と利払日が異なるため、経過期間に対する利息の見越額を計上する。